

岩手県大槌町『絆』講演会を開催



東日本大震災で被災した岩手県大槌町から民生児童委員と社会福祉協議会の職員を講師に招き、10月6日、総合福祉センターで講演会を開催しました。参加した約160人は、大槌町の被害状況をはじめ、災害発生後の避難所の様子や仮設住宅での現状、これからの防災などについて話を聞きました。

町内会長も務める民生児童委員の佐藤稲満さん(写真中央)は、災害発生後、ライフラインの寸断や住民の所在確認などで混乱しながらも、炊き出しや保有する米を分け合うなど、避難した者同士が協力して避難所を運営する当時の様子を話されました。また、災害に備えた避難訓練や防災教育、自主防災組織の強化など、大槌町で地域住民が取り組む防災計画を例に挙げ、「災害対策は、公的機関がやってくれるものと考えない。災害はその地域に住む一人一人にやってくる。災害対策は、自分がやるべきこととして捉える。そして、災害は総力戦である。」と考え方を話されました。最後に「落ち着いたように見える被災地ですが被災者の心のケアが今後の課題」と聞き、復興への思いを再認識しました。

この講演会のチケット代の全て(99,000円)を復興に役立てていただくため、大槌町社会福祉協議会に寄付しました。ご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。



地域福祉課



リフレッシュサロン ボランティア養成講座を開催しました!

心の病や悩みを抱える方などのお話を聴くことで、その方の気持ちが少し軽くなっていただけるような「ひまわりサロン」の新設を目指して、ボランティアスタッフの養成講座を開催しました。31の方が、5回にわたって講座を受けました。病気の原因の割合は、心の状況：食事：生活習慣が5：3：2であると言われていたり、話を聞いてもらうことで気持ちがスッキリしたり、問題を自分自身で整理出来たりすることなど、心の健康や傾聴のコツについて学びました。

今後、受講された皆さんを中心に、ひまわりサロン活動として、月1回程度のサロンを開催していく予定です。



「リフレッシュサロン ボランティア養成講座」は、共同募金の配分金で実施しました。

地域福祉課